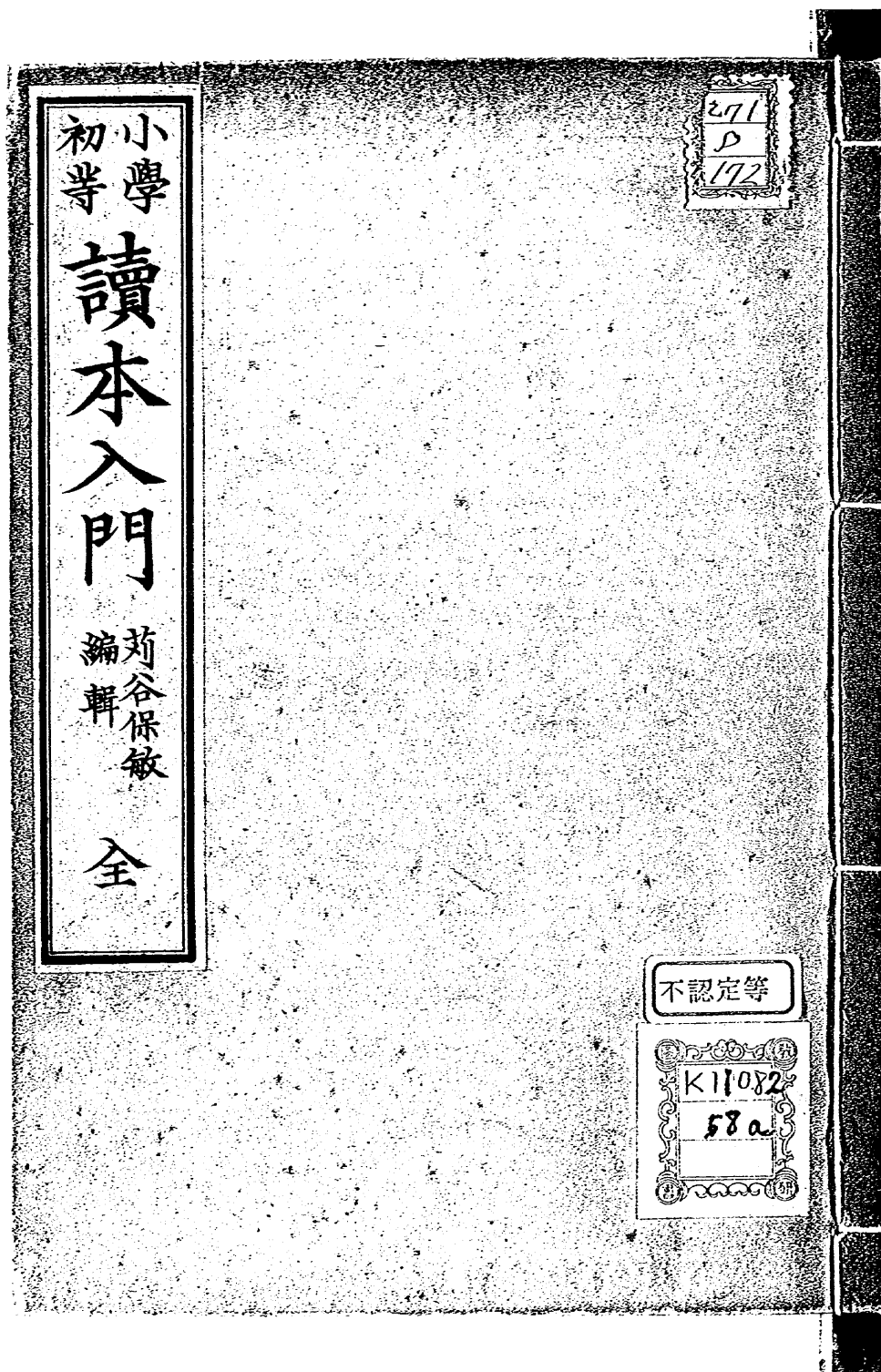




K110.82

58a

荊谷保敏編輯

五級課書

小學初等讀本入門

京都 福井正寶堂版

明治二十年四月六日內務省文部省

教授方法及順序法

一別体假名ヲ授ルニハ懸図ニ就テ其讀方ヲ教フヘシ而シテ其字体ハ平假名ヨリ曲折等多ケレハ書取ノ際尤

其順序ヲ注意スベシ

其文字ノ形ヲ記憶セシムベシ殊ニ讀方ヲ授ルニハ音ノ清濁ヲ注意シテ呼方正シク朗カナラシメ摘書ノ際文字ノ畫ノ誤謬ニ注意セシムベシ又日用諸物ハ實物

或ハ圖ニ就テ其名稱部令常習効用等ヲ知ラシムベシ一單句篇ハ簡短ナル一文章ヲ成シタルモノナレバ教授ノ際其起義結法等ニ注意シ作文思想力ヲ養生スベシ

別體假名の圖

以	本	如
後	月	法
才	魚	我
ハ	坐	王
小	去	可
ノ	里	与

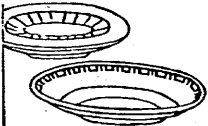
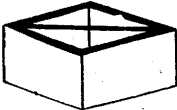
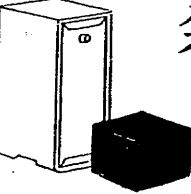
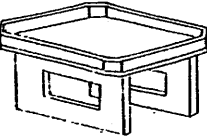
多	法	皇
ノ	祢	屋
走	那	満
七	衣	中
找	羅	衣
律	登	希

以	志	詩	婦
	直	死	木
	乞	羨	元
	乞	也	乞
	勢	免	阿
	志	乞	乞

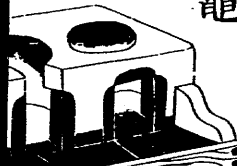
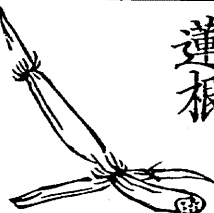
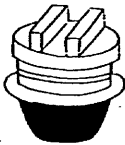
荊谷保敏書

第三圖

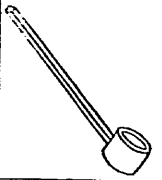
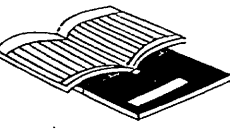
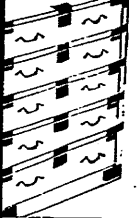
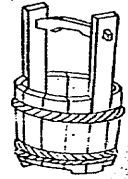
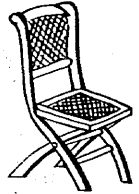
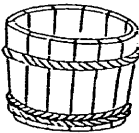
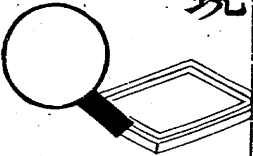
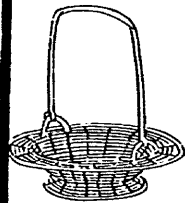
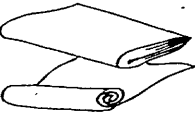
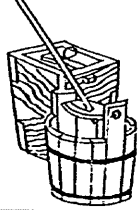
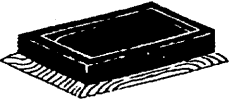
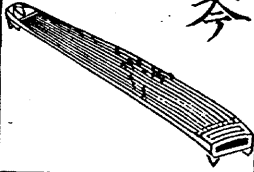


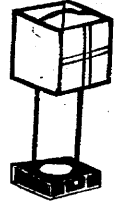
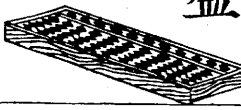
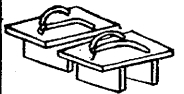
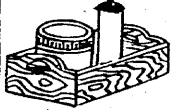
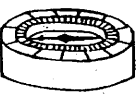
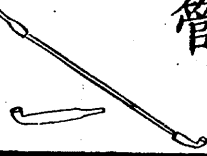
 鍾	 碗	 鍋
 杯	 茶碗	 樽
 壺	 皿	 升
 庖刀	 鉢	 火鉢
 箱	 德利	 膳

圖四第

 竈	 蓮根	 筍
 釜	 薑	 茸
 茶釜	 芋	 蘿蔔
 鐵瓶	 牛蒡	 胡蘿蔔
 土瓶	 葱	 蕪

第五圖

 柄杓	 本	 簞笥
 手桶	 筆	 椅子
 桶	 墨	 鏡
 籃	 紙	 剪刀
 釣瓶	 硯	 琴

 太鼓	 團扇	 傘
 行燈	 算盤	 笠
 提燈	 時計	 下駄
 煙草盒	 磁石	 雪踏
 煙管	 寒暖計	 履

圖七第

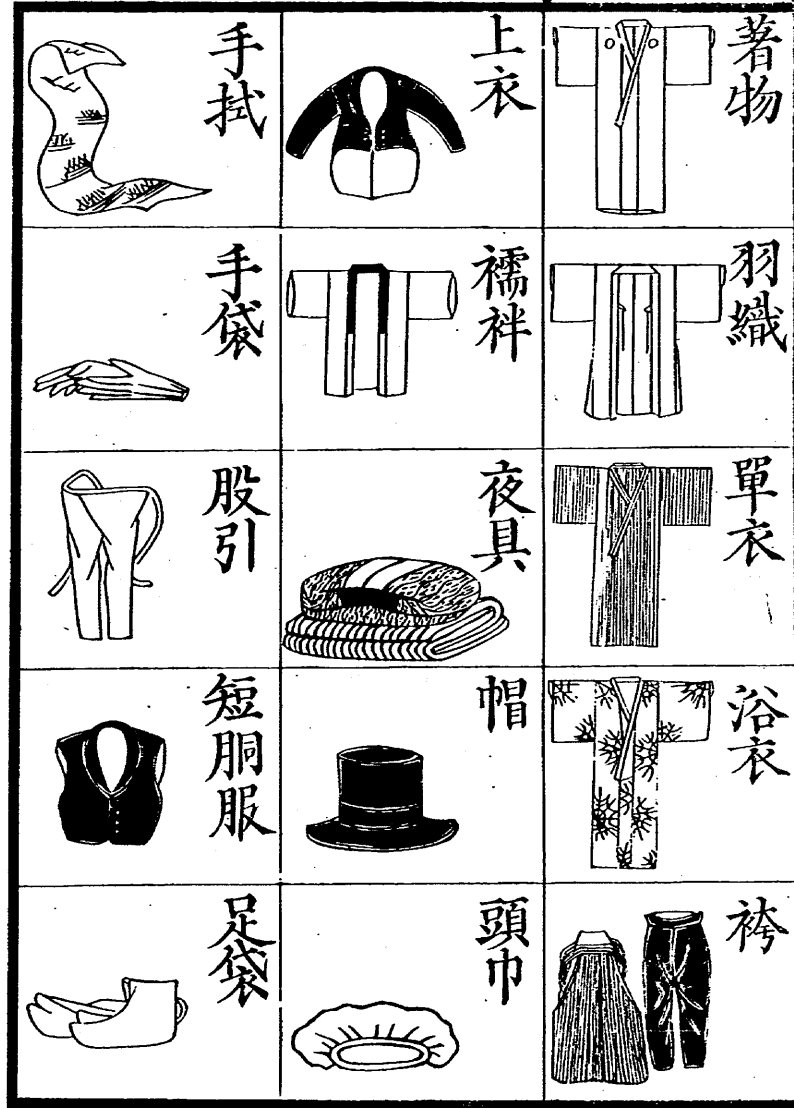


小賣人月

六

王寶堂藏版

圖六第



學言

王寶堂藏版

第八圖

雞	鶴	桔梗
		
鳩	雁	菽
		
雀	鷹	菊
		
燕	鷂	南天
		
鶯	鳥	水仙
		

櫻	松	蛇
		
牡丹	竹	蜈蚣
		
燕子花	梅	蛙
		
百合	椿	蟹
		
柳	山吹	龜
		

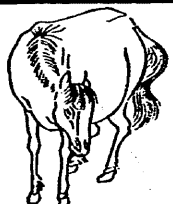
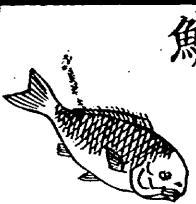
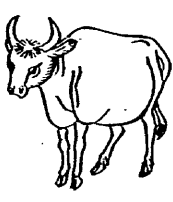
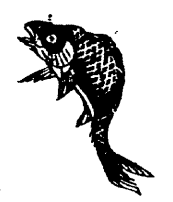
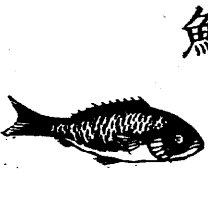
學讀本

正寶堂

小寶堂

七

正寶堂

 馬	 熊	 鯛
 牛	 鹿	 鯉
 猫	 猪	 鮓
 猴	 狐	 金魚
 兔	 狸	 鰻

假名單句篇

第一

机ふむるひ。本を讀む。○筆
 をもちて。手習ふ。○硯ふて
 墨をする。○算盤にてもの
 を數ふ。○黒き羽織をきる。
 ○白き足袋をきく。○鶴

頸も長し。○雁乃足も短し。
○鳥も鳩より大あり。○兎
も狐より小し。○雀も朝軒
になく。○犬も夜門をまも
る。○頭に帽をかむる。○手
に杖を携ふ。○人を乗せて
走る馬あり。○車をひきて

歩む牛あり。

第二

朝日乃方を東とし。夕日
を西とし。○磁石も北
と南をさし。○櫻も春に花
をき。菊の花も秋開く。○夏
も單衣帷子を着。冬も袷綿

入を着る。○東西南北を。四方といひ。春夏秋冬を。四時といふ。○目をけきを見る能ふ。○耳あるゆゑ聞く。こゝを得る。○鼻も香を嗅き。口も食を味ふ。○皮膚にふきて物の剛柔を知る。○

耳。目。口。鼻に。皮膚を合せて。五官といふ。

第三

汝の着物ハ。絹なるや。○我ハ袴も木綿なり。○絹ハ柔に。つるろく。木綿も厚く。てつと。○彼の上衣も毛織に。

て。木の羽織も。麻布あり。○毛織も。最暖にして。麻布ハ。最涼し。○葡萄も。たなをかけて作り。其實も。秋に至りて熟す。○蓮根ハ。沼田に作り。冬の日。ふ之をちる。○柿も。甘く。蜜柑も。酸く。薑も。辛く。慈姑も。苦く。阿

り。○果物ハ。熟したるふ阿らざれも。食ふべあらば。○野菜も。煮ゆるをまちて食ふべし。

第四

草木も。生命阿きども。歩行することを得ば。○鳥獸も。歩行すきども。語ること能ふば。○

人。能く歩行。能く語り。又能く物を考ふ。○物の多少をはかるに。升を用ひ。長短を量るに。尺を用ふ。○天秤ハ。輕重を計るに。用ふるものあり。○土地の高低ハ。水の流を見て知るべし。○木の良否

を。花の容を以て。知るべし。○北の方に。紙鳶の昇りあるとき。風を。何きの方より吹くと知るや。○家の影。西の方。うつるときた。月を。何きの方。ふりと思ふや。

第五

家にありても。父母の命に従ひ
學校ふ於ても。教師の教を守る
盡し。○兄ハ。店に在りて。職業を
勵む。弟も學校ふ出で。學問を
勉む。○姉も。割烹の道にくは
く。妹も。裁縫の道に長む。○惡
き友に交るな。かき。無益のもの

を弄ぶな。かき。○飲食をつ
み。運動を怠らざるも。健康のも
となり。○人の惡きことをいへ
む。我の善きことをいふものな
し。○知らざることも。速に問ふ
盡し。知ることも。かくも盡さ
らば。○人を欺くも。物をぬすむ

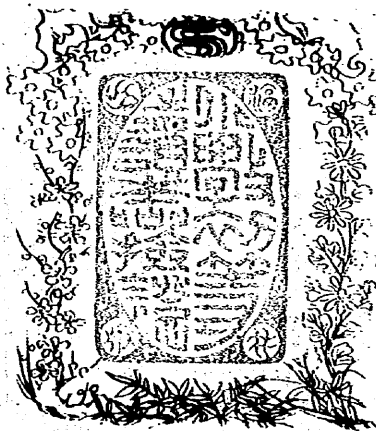
交り單句篇

正寶堂藏版

に同一戯にも虚言をなすこと
なから

假名單句篇 終
交り

12/20.8



丁改高田

板權免許明治十八年三月廿五日

讀入門

再版御届明治二十年二月八日

定價六錢

京都平民

編輯者

荻谷保敏

京都上京區第三組尾張町十四番戸

内壹号

京都府平民

出版人

福井源次郎

下京區第六組條通寺町東入五番十番戸

